

平成26年度泉州南消防組合議会行政視察報告書

1 日程 平成26年10月3日(金)

- 2 視察地 ① 北はりま消防組合
兵庫県加東市下滝野1269-2
② 人と防災未来センター
兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

3 視察者 泉州南消防組合議会議員 15名

議長 中尾 広城
副議長 高木 謙治
議員(監査) 見本 栄次
議員 佐古 員規
議員 矢野 正憲
議員 奥野 学
議員 道工 晴久
議員 中村 哲夫
議員 野口 新一
議員 大庭 聖一
議員 仁部 順行
議員 田畑 仁
議員 成田 政彦
議員 有岡 久一
議員 三原 伸一

随 行 消防長 根来 芳一
総務課参事 奥上 文二
総務課総務係長 北谷 守

4 北はりま消防組合視察概要

(1) 日 時 平成26年10月3日(金)

10時45分～12時00分まで

- (2) 対応者 北はりま消防組合議会 議長 井上 茂和 様
北はりま消防本部 消防長 石古 覚 様
北はりま消防本部 消防部長兼予防課長 上田 昌善 様
北はりま消防本部 警防部長兼情報管理課長 徳岡 恒夫 様
北はりま消防本部 総務課主任 光明 和彦 様

(3) 北はりま消防組合の概要 別添行政視察調査表参照

(4) 視察内容

① 挨拶

泉州南消防組合議会議長 中尾 広城

北はりま消防組合議会議長 井上 茂和 様

② 出席者紹介

泉州南消防組合（泉州南消防組合議会担当）

北はりま消防組合（北はりま消防本部総務課）

③ 北はりま消防組合議会について

北はりま消防組合議会議長 井上 茂和 様

④ 広域消防本部の取り組みにつて

北はりま消防本部 消防長 石古 覚 様

⑤ 質疑応答

Q1：3市1町の組合への負担率について

A1：全体の2割均等割り、残り8割は人口割（最新の国調人口）

Q2：組合議会議長は3市1町のどこから選出か

A2：管理者は加東市からで、慣例で議長は管理者の出た市町からとなっていることから加東市である。消防以外の組合もそうしている。

Q3：消防を広域化して初期消火は良くなったか

A3：広域化前、元の消防本部は消火隊2隊または3隊の出動体制であったが、第一出動で増隊することができ、第二出動もできるようになった。

Q4：消防広域化の具体的メリットは

A4：本年7月から高機能指令センターを整備し、管内一元的に119番の受信、指揮命令ができようになった。消防救急デジタル無線も整備出来た。前述のように災害規模により第二出動もできるようになった。予防行政も充実させていきたい。

Q5：職員採用は構成市町でしているのか

A5：北はりま消防組合として採用している。

Q6：署所の統廃合について

A6：北はりま消防組合として整備計画を策定したが、政治的理由から署所の統廃合について言及していない。（構成市町との連絡調整のため幹事会という会議を持っているが、今後この問題は検討していきたいと考えている。）

Q7：駐在所とはどのようなものか

A7：組合消防になる前に構成市町の一部で市町村合併があり、本日、視察に来られた北はりま消防本部も元滝野町庁舎を使わせてもらっている。合併時、町には常備消防力が無かったため消防力配置を要望され検討したができず、折衷案として日勤時間帯9時から17時30まで、救急隊を配置することとした経緯で駐在所を置いている。

Q8：消防団について

A8：管内の消防団は108分団、団員4,700人、車両287台を保有しており、団の活動は活発である。各署と各分団は綿密に連携しており、常備消防が先着した際、団消火隊へ給水する等協力しあっている。

Q9：指令センターからの消防団招集はサイレン吹鳴か

A9：分団により招集方法は異なる。サイレン吹鳴しているのは1市1町で、その他は防災行政無線の活用や県の防災ネットを使う携帯電話の活用もある。

Q10：消防組合の課題を教えてください

A10：住民の高齢化に伴う救助、救急の充実。

住宅火災の未然防止のため予防業務の充実。

管内を断層が走っていることもあり、地震、台風等自然災害への対応の充実（構成市町災害対策本部への参画）。

消防広域化したことに伴うスケールメリットを活かした、更なる消防力の充実強化。

以上の4点である。

⑥ 高機能消防指令センター見学

北はりま消防本部 警防部長兼情報管理課長 徳岡 恒夫 様による説明

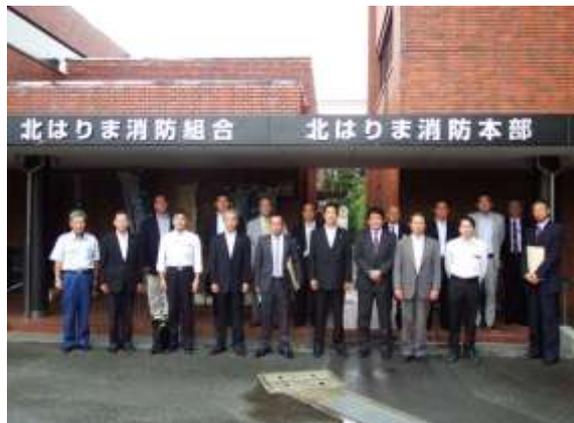
⑦ その他

御礼の挨拶

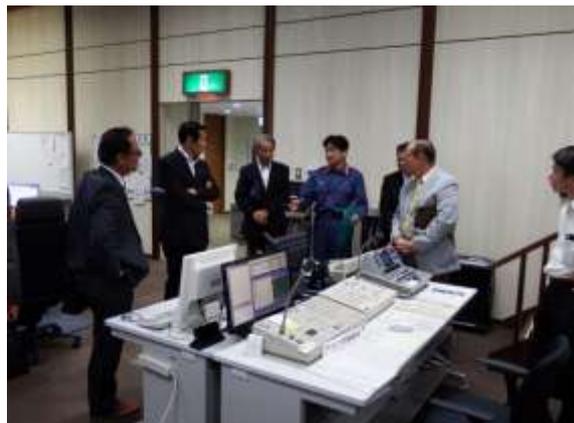
泉州南広域消防本部 消防長 根来 芳一

【北はりま消防組合行政視察】





【高機能消防指令センター見学】



5 人と防災未来センター視察概要

(1) 日 時 平成26年10月3日(金)

14時30分～15時30分まで(施設見学)

15時30分～16時00分まで(阪神・淡路大震災体験者講話)

(2) 対応者 阪神・淡路大震災体験者語り部 山田 耕祐 様

(3) 視察内容

① 施設見学

② 講 話

関東大震災は火災で10万人以上の被害、阪神淡路大震災は建物倒壊の圧死で6千人以上の被害、東日本大震災は津波で2万人以上の被害をもたらしたが、地震による被害は様々である。

平成7年1月17日の朝刊、18日の朝刊、19日の朝刊、21日の朝刊をもとに地震発生後の神戸の報道(神戸新聞)について、毎日、倍々で死者の数が増えていく様子を語っていた。神戸新聞社は三宮駅前にあったが被災したため、記者が撮影した写真をバイクで運び業務提携していた京都の新聞社が編集、印刷をしてくれ、バイクで六甲山を越え神戸に運び配布していたとのことである。

語り部の70歳代男性は、芦屋に住んでおり、西宮の教育委員会で務めていたため、学校が避難所となり被災者の救護等に当たった。最初の3日間は食料、水の公平な配給で苦労したが学校と地域の結びつき(コミュニティやボランティア)に助けられたとのことである。

【人と防災未来センター施設見学】





【阪神・淡路大震災体験者講話】



